

序章 調査の概要

序－1 調査の目的

我が国の豪雪地帯は、国土の51%を占めており、これらの地域においては、冬期の降積雪がはなはだしいため、地域住民の生活水準の向上や産業の発展が阻害されている。

豪雪地帯の集落をみると、人口減少・高齢化の進行に伴い集落機能が低下し、集落内の自助・共助では豪雪時の屋根雪下ろしや敷地除雪等への対応ができず、安全、安心な冬期生活を営むことが困難になってきている状況もみられる。

本調査では、集落で継承されてきた雪国らしい暮らしを活かしつつ新たな暮らしを創造するため、豪雪地帯における集落の実態を把握するとともに、集落の雪処理及び冬期生活における問題・課題の整理、対応方針の検討、実証実験等を行うことにより、豪雪地帯の集落において安全安心で豊かな暮らしを行うための対応方策について検討を行うものである。

序－2 調査の内容

本調査における内容は、以下のとおりである。

i) 豪雪地帯の集落における問題・課題の整理

昨年度と同調査結果を踏まえた上、本年度のアンケート調査等に基づき、豪雪地帯の集落における今日的な問題・課題を整理する。

ii) 集落の安全で豊かな冬期生活のための対応方針の検討

上記i)で整理した問題・課題に基づき、豪雪地帯における集落の安全で豊かな冬期生活を確保するための対応方針について検討する。

iii) 共助による地域除雪に関する実証実験

上記ii)の対応方針に基づき、対象地区(2箇所)を選定し、地元地域との調整・連携を図りながら、共助による地域除雪に関する実証実験を行うとともに、実験の成果を「共助による地域除雪の手引き ～安全効率的な雪処理方策マニュアル～」に反映させる。

iv) 冬期の住まい方に関する実証実験

上記ii)の対応方針に基づき、対象地区(2箇所)を選定し、地元地域との調整・連携を図りながら、冬期の住まい方に関する実証実験(冬期居住:冬期の一定期間、自宅以外のところに移り住む)を行う。

v) 冬期の住まい方に関する評価の検討

上記iv)の実証実験の結果等を踏まえて、冬期の住まい方による効果や負担・コスト等に関する定量的評価及び定性的評価のあり方について検討する。

vi) 集落の安全で豊かな冬期生活のための対応方策の検討

以上の結果に基づき、豪雪地帯における集落の安全で豊かな冬期生活確保のための具体的方策について検討する。

序-3 調査の流れ

本調査の流れを整理すると、以下のとおりである。

図-1 平成21年度 雪国の豊かな暮らし継承方策調査 フロー

